

「子ども文化財読本」の改訂によせて

熊野市教育委員会教育長 倉本 勝也

私たちの住んでいる熊野市は、豊かな自然、あたたかな気候きこう めぐに恵まれた、歴史のある地です。

今、科学技術がものすごいスピードで進歩する中で、ICTアイシーティーやIoTアイオーティーを活用かつようして、より効率的で便利な社会こうりつてき べんりになってきました。ただ、そのような社会がすべての人にとって生活しやすいかについては、意見の分かれるところでもあります。

これからの社会を心豊かに生きていくためには、ICTやIoTをうまく活用して、日常生活を便利にするとともに、自然や文化財、芸術品等に直接触れ、心のゆとりや生きがいを得ることも大切ではないでしょうか。みなさんの中には、大人になってからも熊野市に住み続ける人や、熊野市を出て生活する人もいます。ただ、どこに住んでいても、生まれ育った熊野市の自然や歴史、文化のことを、ある程度説明ていどできる人であってほしいと願っています。

熊野市には国、県、市の指定を合わせて100をこえる文化財がありますが、これらの中には熊野市で住んでいる人もあまり知らないものもあります。

みなさんは有馬町の「花の窟」に行ったことがありますか。そこにある神社は、日本でもっとも古い神社と言われており、全国各地から観光で訪れる人やスポーツ選手がお参りをするために訪れています。

これらの文化財を集め、文化財についてのエピソード、民話や言い伝え、地名の由来を交え、小中学生用にまとめたのがこの「子ども文化財読本」です。

この「子ども文化財読本」は、平成16年に発行してから、今回が2回目の改訂となります。

編集委員の皆さんが、たくさんの時間をつかって取材や資料集め、史実の確認、写真や絵・図を新しくするなどの作業を行ってくれました。

編集委員の皆さんをはじめ、ご協力いただきました多くの皆様にお礼を申し上げますとともに、多くの子どもたちが活用していただくことを願って、改訂のことばとさせていただきます。

令和4年3月